

一 般 (代 表) 質 問 通 告 一 覧 表

令和2年第1回笠岡市議会定例会

2月29日・3月5日(2日間)

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
1 笠栄会 奥野 泰久	1 市長言われる「結果」重視の視点で4年間の成果について	(1) 市長政策の一丁目一番地の「地場産業の育成と企業誘致による雇用の拡大」は、第7次総合計画の経営戦略“稼ぐ”という視点で展開されているが、一見奇抜にも聞こえるが、その成果はあったのか。 (2) 「大規模な住宅団地開発の誘導」について、国道2号バイパスの開通予定年度が公表されたが、大島地区・干拓地内・茂平地区はどのように変化するのか。また、篠坂パーキングスマートインターチェンジの整備については、事業化の目途がこの秋と聞いているが、農振地域や土地利用計画などの調整はできているのか。 (3) 「目指せ健康寿命世界一」について、高齢者医療費や介護費用との相関はどうなっているのか。高齢者の移動手段であるタクシーチケット助成は好評であるが、免許証返納等もあり、課税世帯にも助成できないか。	市 長  ”  ”
	2 「鞆の浦」との日本遺産同志の連携推進と観光振興について	笠岡はかつて福山藩領地であったことから、観光で鞆の浦と連携ができないか。鞆の浦は観光のメッカとして隆盛を得ており、素材として坂本龍馬の海援隊「いろは丸事件」は六島沖で紀州藩の軍艦明光丸と衝突沈没している。このことから、鞆の浦と連携し笠岡諸島を組み込んだ瀬戸大橋・金毘羅宮・道後温泉などを結ぶ観光コースや笠岡諸島との単体での連携など模索できないか。	市 長
2 日本共産党 樋之津倫子	1 市長の4年間で振り返って	この3月議会は任期最後の議会となる。 初日の議案説明ではとても丁寧に、これまで	

		<p>重要視して政策，その成果について語られた。特に企業誘致・雇用の創出・税の増収について力説されていた。同時にその政治姿勢は，“稼ぐ”自治体という言葉として，特徴的にあらわれているように感じた。</p> <p>改めて4年間を振り返り，以下尋ねる。</p> <p>(1)(ア) 市税も企業法人税も減少傾向にある今日，企業誘致を求める市民の声は大きい。しかし多額の奨励金を出してもやがて元は取れ，税は増収に向かうのかどうか，雇用は増えているのかどうか，夢を語るだけではなく，検証すべきと思うがどうか。</p> <p>(イ) 誘致した企業からの税収の変化，企業誘致に投入した奨励金や関連事業などの総額の変化を示してほしい。</p> <p>(ウ) 企業の業績や，事業計画の内容などから，未来の増収を担保できるのかどうかを，どのように確認しているのか。</p> <p>具体的な例を示した説明を求める。</p> <p>(1社のみの例が無理なら，一定の工業用地内の数社を対象にしてもよい。)</p> <p>(2) 税の滞納世帯を訪問し，収納活動をする市長がテレビ報道されたのは，記憶に新しいところだ。</p> <p>昨今の社会事情で営業不振になったり，経済の悪化や雇用形態の不安定さが生み出す貧困と，格差の広がりからやむなく税を滞納した市民が，一定期間過ぎると県の税の岡山市町村税整理組合に回され，破産の憂き目にあうという事例は珍しくない。</p> <p>また，子供がいる世帯における低所得世帯の割合は，岡山県の9.8%に対し，先日報告された笠岡市の速報値は11.8%と県を上</p>	<p>市 長</p> <p>市 長</p> <p>市 長</p>
--	--	--	----------------------------------

		<p>回っている。税の滞納問題は、こうした背景と無関係ではない。収納率向上が“稼ぐ”自治体として重点的に取り組まれているように思うが、困難を抱えている人たちに対し、人権重視・憲法 25 条の精神を生かした、人間的な対応ができているかどうかを、どのように認識しているか尋ねる。</p> <p>(3) 市長の公約の中でも、水道料金の引き下げと、高校卒業までの通院含めた医療費無料化は、我が党も公約に掲げ、努力してきたことからその実現に期待した。</p> <p>その後の努力の跡が見られない。4年目の締めくくりとして、実施に踏み切ってはどうか。</p> <p>(4) 市民と協働のまちづくりでは、まちづくり協議会の注目すべき取り組みも見られるが、今後どう広げていこうとしているのか尋ねる。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p>
<p>3 立真会 坂本 公明</p>	<p>1 令和 2 年度予算について</p> <p>2 市政運営について</p>	<p>任期中には大きな災害に見舞われるなど、厳しい状況下で、新たな施策にも取り組まれてきた。</p> <p>令和 2 年度予算は、市長・市議選を控えて骨格予算として編成されたが、市長は長期的な視点で将来を見据えた計画を着実に推進するため、必要な経費を予算化したと述べられた。</p> <p>そこで、以下の点について尋ねる。</p> <p>(1) 予算編成に当たっての基本的な考え方。</p> <p>(2) 予算編成の中で特に配慮した重点施策は何か。</p> <p>(3) 財源確保に努めるなど、健全な財政運営を基本として予算編成されたと思うが、今後の財政見通しはどうか。</p> <p>小林市長は、間もなく 1 期目の任期が終わろうとしているが、市政運営の考え方については</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

	<p>3 新型コロナウイルスの予防対策について</p>	<p>新年度予算の提案の中で述べられたが、改めて市政運営の考え方について尋ねる。</p> <p>(1) 4年間の評価と残った課題について</p> <p>(2) 行政のトップとして、自身をどのように評価されているか。</p> <p>(3) 市民に対して平等な市政運営であったか。</p> <p>(4) 次代を担う職員の育成について</p> <p>昨年末に中国武漢市において、新型肺炎の集団発生が報告された。20年程前にSARSが世界中を脅威に陥れたが、また新型のウイルスによる感染が拡大し始めており、1月末には世界保健機関(WHO)も緊急事態宣言を発表した。</p> <p>日本でも、1月になって中国武漢市に滞在歴がある人が新型コロナウイルスに感染していることが確認され、感染者は増え続け、死亡者も出ている。感染経路が分かりにくい市中感染の疑いもあるという。そういう中で、厚生労働省は、相談・受診の目安を示したり、イベントの開催を検討するよう要請するなど懸命に感染防止に取り組んでいる。</p> <p>市民は、予防しようにも、マスクや消毒薬などが入手困難な事態になっており、不安を募らせている。</p> <p>このような状況において、行政としてどのように対応されるのか尋ねる。</p> <p>(1) 笠岡市としてはどのように考えているのか。</p> <p>(2) 公的医療機関との連携(ネットワーク)について</p> <p>(3) 市民に対しての情報発信と啓発はどうされるのか。</p> <p>(4) 医療従事者への感染も出始めているが、医療体制の確保について</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	-----------------------------	---	---

	4 障害者相談支援体制について	<p>(5) 重症化しやすい高齢者等の福祉施設内での感染防止対策について</p> <p>障害のある人とその家族が安心して生活できるようにサポートする相談支援センターは、現在は井笠圏域の広域で構成され運営されている。開設されてから10年以上が経過し、利用者から身近な所で相談を受けたいとの要望等に応じて、令和2年度から新たな体制になるが、その見通しについて尋ねる。</p> <p>(1) 相談を受ける場所が当初と変わっているが、その理由について</p> <p>(2) 障害の種類(知的、身体、精神)に応じて、市内の3つの相談支援事業所が対応していたが、2事業所で対応することになる。その中身について</p> <p>(3) 先行きが不安視されるが、今後の方向性について</p>	市 長      市 長  "  "
4 公明党 齋藤 一信	1 災害に強い笠岡市を作るために	<p>(1) 指定避難所となっている公共施設のホームページのクラウド化など、災害時に迅速に情報を収集し、リアルタイムで関係機関と共有するためのシステムの構築について、笠岡市の見解をお聞かせください。</p> <p>(2) 笠岡市が目指す、マイタイムラインの取組み計画について、お考えをお示してください。</p> <p>(3) 土砂災害対策について、今後の計画をお示してください。</p> <p>(4) 災害時用の液体ミルク備蓄導入をすべきと考えます。市のお考えをお示してください。</p>	市 長   "  "  関係部長
	2 危険家屋対策について	<p>(1) 市内危険家屋の現状について、お示してください。</p>	市 長

		<p>(2) 庁舎内危険家屋専門部署の設立の必要性について、市のお考えをお尋ねします。</p> <p>(3) 笠岡市の今後の危険家屋に対する年次の対応計画について、方向性をお示してください。</p>	市 長 ”
	3 笠岡市が目指す幼保教育とは	<p>(1) 令和元年10月1日から、すべての3歳児から5歳児クラスの子供たちや、市民税非課税世帯の0歳児から2歳児クラスの子供たちの利用料が、無償化されたことを受けての保護者や保育関係者の声、現状を副食費の実費負担、保育施設での無償化による事務処理の負担増の課題も含めて現状をお示してください。</p> <p>(2) 3～5歳児（就学前3年間）の副食費（おかず、おやつ代）を笠岡市独自に全額補助するべきと考えますが、市のお考えをお示してください。</p> <p>(3) 少人数での幼児教育の維持を求める地域、保護者の声がいまだ根強くありますが、そういった地域、保護者に対して、スムーズにこども園に移行、統合する上での留意点、取組みについて、市のお考えをお示してください。</p>	市 長 ” ”
5 徳清会 仁科 文秀	1 財政調整基金について	<p>小林市政の4年間が終わり、また新たな段階に入っていこうとしている。「入るを量りて出づるを制す」の言葉に象徴されるように、市長はこの間、いかに歳入を増やし歳出を抑えながら、笠岡を住みやすい魅力あるまちにしたいと考え続けてこられたように思う。</p> <p>このたびの質問は、市政に対する市民のさまざまな声を聴き、ご意見をもとに、以下、質問をさせていただく。</p> <p>笠岡市の貯金である財政調整基金は、現在約7億円と周辺他市町に比べ極めて少ない。少な</p>	市 長

	<p>2 未利用地について</p>	<p>くなっているのは、市長が浪費したからという一部の市民の声がある。こうした声に対して、まず、市長の見解を尋ねる。</p> <p>市内には使われていない多くの市所有の土地がある。</p> <p>(1) 未利用地についてこれからどうするのか。今後の方針や計画、具体的な取組みについて尋ねる。</p> <p>(2) 特に、次の土地については今後どのようにしようとしているのか尋ねる。</p> <p>(ア) 美の浜の児童公園など公園用地</p> <p>(イ) 真鍋島の学校用地</p> <p>(ウ) 園井の市営住宅用地</p> <p>(エ) サンキョウハウジング撤退後の美の浜のグランド跡地</p>	<p>市長</p> <p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
	<p>3 公共施設等総合管理計画について</p>	<p>(1) 笠岡市は、将来に大きな負担を残さないように、40年後のハコモノ施設を25%削減する目標を立てている。過去の質問に対する答弁では、笠岡市立図書館と同規模の施設を、毎年削減していく数字になると答えている。この計画が策定された、平成28年度以降の進捗状況と今後の計画について尋ねる。</p> <p>(2) 370施設と、他市に比べ多い教育・保育関連施設は、「就学前保育施設再編整備計画」を発表以降、特に公立施設の児童減が進み、市長の思惑通りに進んでいる。今後、こうした、特に教育・保育施設の削減を前倒しで進めていくのか尋ねる。</p> <p>(3) なぜ、公共施設を削減していかないといけないのかについて、市民には十分な発信ができていない。納得を得られる説明をしていくのか尋ねる。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

	<p>4 幼稚園・保育所再編整備計画について</p>	<p>笠岡市から、12月18日時点での各園の申込状況が発表された。それによると、特に公立幼稚園10園では、1,070人の定員に対し、全体でも申込計111人、1園平均わずか11人である。昨年より公立幼稚園全体では一挙に40人以上減っている。全体として児童数が大きく減少している中、私立の保育園、認定こども園に申し込みが集中しており、対照的となっている。</p> <p>(1) 公立幼稚園、公立保育所への希望が減るのは仕方ないと考えているか尋ねる。</p> <p>(2) 残す園については、すべて認定こども園にする本市の方針に対し、幼稚園教育の重要性を訴えて、市内に幼稚園を残すべきだという意見がある。笠岡市の見解を尋ねる。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p>
	<p>5 人口減少問題について</p>	<p>笠岡市が将来にわたり持続し、社会が維持できる望ましい人口構成を目指していくには、生まれてくる子供の数を増やすことが求められる。しかし、近年は出生数が年間200人前後で推移し、10年前に比べ、一挙に100人以上減少している。</p> <p>(1) 生まれてくる子供の数を増やすことが必要だが、本市としてどのような努力をしているのか尋ねる。</p> <p>(2) 本市は、若者、特に若い女性の意見を大切にして施策を展開していくことを掲げているが、取組みとその成果について尋ねる。</p> <p>(3) 先日、一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山所長の、興味深い講演が本市であった。その中で所長は、笠岡市は今ままでいくと、30年後には人口が25,000人台まで落ち込み、65歳以上の高齢化率は50%を超えたとした。しかし、20代前半男女70組、30代子連れ夫婦70組、60代定年帰郷夫婦70組合計210組490人、す</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>関係部長</p>

	<p>6 空き家問題について</p>	<p>なわち現在人口の1.0%分余りが増加することで人口減を食い止めることができるとして、陶山地区の目標数字を示された。誰もが人口減少は避けられないと初めから諦めているが、自治体全体としては難しくても、小さな単位の地区ごとに、定住増加の具体的な取組みが可能であると提案されている。この提案を聞いて、笠岡市としてできることがあるか尋ねる。</p> <p>空き家の増加が目立つ。総務省の調査によると、全国の空き家は、全住宅の7戸に1戸だというが、笠岡市ではこの数字より空き家率はかなり高いと思える。その原因は、死亡・転居・施設入所などであるが、今後ますます増えてきそうである。</p> <p>(1) 国では、平成26年度に空き家特別措置法ができ、その後、笠岡市でも「空き家等の適正管理に関する条例」ができた。これらのできたことで、市ができることや市民の意識が変わったか尋ねる。</p> <p>(2) 条例の第4条には、適正に管理する所有者の責務をうたっているが、市民の責任感と意識を高めるために市が何をしているか、その効果は出ているか尋ねる。</p> <p>(3) 死亡や転居などで、誰も住まなくなった空き家が放置されているのをよく見る。全国には、空き家になる前から持ち主をサポートして、所有者が地域を離れても、一緒に活用を考えるようにしている市町村も出てきている。空き家が特定空き家にならないように、また、有効に活用するために、地域と協力してこのような仕組みができないか尋ねる。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	--------------------	--	-----------------------------

	7 市長の政治に対する姿勢について	<p>笠岡を変えたいとの強い思いがありすぎるのか、市民は、私の言うことに従えというような独善的な判断や言動、先に方針や結論を決めていて、市民、地域、議会への理解を得ることが後回しになっていることがあるという声を聞く。説明がないまま、マスコミに発表してしまっていることもある。</p> <p>市長は、市民本位の市政を行おうとしているのか尋ねる。</p>	市長
6 新政みらい 天野喜一郎	1 定住促進について	<p>全国的に、地方から都市部への人口流出は著しいものがあり、地方における定住者も減少の一途をたどっている。</p> <p>笠岡市も例外ではなく、市内転入者数と転出者数の差は、転出者の方が全年齢層を見ても大きい。特に重視すべき点としては、生産年齢前期である15～39歳の人口の市外への転出者数が著しく、平成30年度の全体の市外の転出者数の半数以上を占めている。</p> <p>(1) 全国の移住を考えている人(移住希望者)にどのような情報発信をしているのか。</p> <p>(2) 生産年齢前期(15歳～39歳)の居住の誘導に対しての施策が考えられないか。</p> <p>(3) 福山市、倉敷市の企業に対して企業版の空き家バンク(シェアハウス)などの事業が展開できないか。</p>	市長
	2 学校教育における防災意識の向上と震災の危機意識向上策について	<p>日本は世界的に見ても地震の多い国である。気象庁のデータによると日本で起こっている地震件数は世界で起こっている地震の1/10を占めている。しかし、岡山県では、震度1以上の地震発生件数は5件と地震が少なく、このことが防災意識の希薄さを招いている。</p> <p>本市では過去50年間、震度5弱以上は発生していないが、南海トラフ大地震想定では、干拓の一部が震度6強で市内中心部等は震度6弱と</p>	〃 〃

	<p>3 活力あるまちづくりについて</p>	<p>予測されている。</p> <p>また、1946年12月の南海地震はマグニチュード8で、岡山県の南部で死者51人、負傷者187人、家屋全壊478棟の記録が残っている。</p> <p>震度6弱とは、「立っていることが困難になる」、「固定していない家具の大半が移動し倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。」となっている。</p> <p>学校教育における防災意識の向上により市内全体の意識の向上につながると考えられる。</p> <p>(1) 研修旅行等により、実際に被災地での体験はできないのか尋ねる。</p> <p>(2) 校内の避難訓練の質の向上について、自ら考え実践する避難訓練の実施は可能か尋ねる。また、自主防災組織との連携強化について尋ねる。</p> <p>(3) 災害事例等を動画化し、ホームページやテレビの一部へ常設化、及び防災教材等で家具の固定化や耐震補修の必要性が理解でき、耐震強化等が図れると思われるかどうか。</p> <p>少子高齢化・人口減少が進む中、地域の活性化には、定住促進以外に観光客等呼び込むことが必要不可欠であると思われる。いわゆる交流人口の増加である。</p> <p>そのためには、観光を目先だけで考えるのではなく、長期的に持続させていくための考え方を示す必要がある。(観光振興ビジョン)</p> <p>以下について尋ねる。</p> <p>(1) 基本的な考え方について</p> <p>(2) 都市計画マスタープラン、笠岡市立地適正化計画との整合性について</p> <p>(3) 具体的な施策について</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	------------------------	--	---

	4 教育改革について	小中一貫教育，学校適正化計画，幼保一体化等が進められているところだが，市民の理解が得られているとは思えない。今後どのように進めていくのか尋ねる。	教育長
--	------------	--	-----